

米原歴史街道

米原市の歴史・文化財を歩く ⑪⑩

松尾寺七不思議

— 山岳信仰にまつわる伝説 —

七不思議の伝承

松尾寺（上丹生）は、松尾寺山の山頂よりすこし下がった山腹にあります。寺伝では天武天皇九年（六八〇）に役行者が松尾寺山に入り修行

したのが始まりとされます。一説には神護景雲三年（七六九）に僧宣教が靈山（靈仙山）付近に建立した靈山寺七箇別院のうちのひとつともいわれています。旧境内地には、文永七年（一二七〇）の銘がある石造九重塔（重要文化財）があり、鎌倉時代にも繁栄していたことがわかります。山中には、本堂を中心にか〇か所ちかくの小さなお寺跡やお茶などを生産した平地が広がっていて、山岳寺院の典型例として平成二三年に滋賀県の史跡に指定されました。

松尾寺のご本尊は、聖観音と十一面観音の二体の仏像です。役行者が修行をしているとき、雲に乗って空中から飛んで降りておいでになりました。秘仏になっており、空中飛行尊像（観音）と呼ばれています。七

不思議の第一です。さらに、山中には以下のような不思議な場所が伝えられています。

影向石／仏様や神様が衆生を救うために一時姿を変えて出現される石のことです。本堂跡の上を一〇〇メートルほど登ったところにあります。雲中より飛来されたご本尊の飛行観



▲ 影向石

音がこの石の上に降りられたと伝えられています。上が平らになった自然石で、仏様の足跡が残っているといわれています。役行者の斧割り水／役行者が初めて松尾寺に入り、お堂を建てる場所を探されました。山の上のために水が得られませんでした。弟子に命じて、ご祈祷して斧で自然石を打ち割らせました。すると清水がこんこんと湧き出てきて、今も絶え間なく岩の割れ目からきれいな水が湧き出ています。鐘鑄り場／松尾寺の釣鐘を鑄造したところとい伝えられています。本堂の南上方約三〇〇メートルのところにあります。

大きな窪地になっており、その真中に亀石といわれる石があります。亀石は不浄なことを嫌い、たとえばこの石に小便等をする、腹が痛くなつて下山できないといわれています。一本橋／松尾寺の境内に入る道はいくつかありますが、どこから来ても、川がないのにこの石の橋を渡らないと入ることができないといわれています。石橋は聖と俗の結界です。この橋を渡るのには禊ぎを意味します。挟み岩／本堂の左階段を下りて一〇〇メートルほどいくと岩が両側から迫って急に道が狭くなっているところがあります。松尾寺で悪いことをすると挟まれて動けなくなる

と伝えられています。修験道の修行の行場の雰囲気と思わせる雰囲気があります。夫婦杉（二本杉）／



▲ 挟み岩

弘法大師が東国巡礼の途中、松尾寺に参詣され、峯の見晴らしのいい所で弁当をとられました。そのときに使われた箸を二本並べて突き刺され、それが根付いて大きな杉の木になりました。また、その突き刺し方が、上下逆でしたので、木の枝はみな下を向いて伸びていたといわれている不思議な霊木です。現在は片方が倒れて一本だけ残っています。

古来、山中の岩や木、滝には靈性があり神仏の依り代でした。一本橋からの山内は神仏の住む場所であり、亀石や挟み石はそこに至る修行の場です。七不思議に登場する役行者や空海をはじめ、多くの修行僧が松尾寺を訪れ、山岳信仰の寺として栄えてきたことを、伝説が物語ります。

（歴史文化財保護課）